



Title	利用学生の声 サイバーメディアフォーラム no.17 情報教育システム
Author(s)	
Citation	サイバーメディア・フォーラム. 2016, 17, p. 40-41
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/70413
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

利用学生の声

「情報活用基礎」の授業では、画像編集や Web 作成などといった、高校ではやらなかった内容を短時間で基礎だけが学ぶことができた。応用までは手が回らなかったが、取っつき辛いプログラミングに取り掛かるいいきっかけにはなったと思う。また、授業は理学部の物理、生物、化学、数学のそれぞれの先生によるもので、私は特に化学のスペクトル解析の授業が楽しく、興味深い内容だった。

情報活用基礎の授業において、最初はインターネットの基礎知識から中盤、終盤にあたりでエクセルの表計算やパワーポイントを用いてのプレゼンテーションと言った実用的な面での学習もなされており、大変満足しております。しかし、1 年生の 1 セメスターだけでは十分な情報教育が行えていないと自分は考えております。今の時代において重要なものを 1 セメスターだけで習熟するのは非情に困難です。授業時間の増加など検討していただけると幸いです。

私はもともと機械に疎く、情報の計算機システムはマウスを自分の使いたいツールの上にかざせば操作の仕方が表示されたりするのだが、その説明を専門用語でされるのとあまり分からず、先生や TA さんに頼ることが多かった。理系の学生や機械に強いひとにとっては簡単な説明なのかもしれないが、初心者からすると専門用語がもう少しわかりやすく解説されているとよいのではないかと感じた。

表計算ソフトの機能(関数)は詳細に解説をされていて理解しやすかったが、実際の実践が少し足りない気がする。(統計における)表計算はどの学部でも活用しうるので、各学部授業に沿った実践的活動がもっとあったほうが良い。

私は歯学部に所属しており、研究にも興味を持っているため、これからの勉強や研究で使用すると便利そうな統計処理などの道具を情報活用基礎の授業を通して身につけられたと思う。例えば、患者さんの性別・年齢などの基本的な情報から検査結果の数値などより専門的な情報まで様々なデータが入っているものからグラフを作成することによってその疾患の特徴や予想される原因を考えることができる。そのようなことは情報活用基礎の授業でスキルを身につけるまでは到底できるものではないと思っていたが、ソフトを利用したりすれば自分にも基礎的なことならできるかもしれないと思えるようになった。また、そのような統計処理などの弱点や正しい利用方法なども分かった。

私は高校卒業するまで、パソコンも携帯も持っていなかったので、情報機器の操作は全くできず、この授業で教員が使用しているコンピュータ用語もはじめは全く分かりませんでした。しかし、授業後の自主学習の成果もあって、授業回数を追うごとに、何がテーマの話題となっていて現在どのような問題が起こっているのかが理解できるようになりました。また、この授業を通して、自分が全く知らなかった世界を知ることができ、興味関心を抱くことができました。

情報の授業では、プログラミングや情報処理、画像処理について学んだ。しかし、みなパソコンの扱いの慣れには大きく差があるので、研究などでしか使わないプログラミングのような専門的なことではなく、もっと基礎的な部分を教えるべきと感じた。インターネット検索で有用で信頼できる情報を獲得する仕方、ネットリテラシー、マナー、レポートを書く

ときの Word の使い方、授業でスライドを作るときの Power Point の使い方、そういった大学生活に直結する基本的な部分をまずするべきだと思う。Mathematica は数学実験でやり方を学ぶ。将来の研究活動に役立つといっても、研究内容によってはプログラミングなど必要ない。もしくは、別のプログラミング言語を扱うから、1 年の時の学習は水の泡だ。そういった無駄な授業をやめていただきたい。

情報活用基礎で学んだ Excel、Word、PowerPoint 等の使い方は普段のレポート、発表資料の作成に大いに役立ちました。内容も適当で、大学生のうちに身につけておきたいツール活用方法を学びました。しかし一方で、他の便利な機能の使い方や、ツールがなぜ存在しているのかという目的の説明が簡素になる場合も多く発展的な内容を取り扱うには時間が足りないと感じました。今後社会に出て行く過程で、また情報化が進んだ現代社会においてメディアリテラシーはどんな人にも必要な能力であるため、こうした能力の向上を図るために様々なカリキュラムを用意して欲しい。

情報活用基礎の授業では、アカデミックライティング、メールの書き方から、HTML を用いた HP の作成まで様々なことを学ぶことができました。特に、丁寧なメールの書き方は、社会人になってからも必要な知識なので講義で丁寧に解説してくださりととても助かりました。大学生になり、教わる機会はないと思っていたのでうれしかったです。latex の使い方では、演習に時間をとってくださり上達することができました。html についての講義では、web ページがどんな風に作られているのか理解でき、とても興味深かったです。また、自分のHPも作成することができました。4 か月ほどの短い講義でしたが、多くのものを得られたと思います。これからの大学生活において大いに生かしていきたいと思っています。

膨大な数の患者さんの情報をデータベース化したり、様々な情報から必要な情報のみを抽出する技法を授業で習ったことはすごくためになった。しかし、学会や公式な場で自分の考えを発表するためのプレゼンテーションの授業が一回しかなく、効果的なスライドの作成方法や分かりやすい記憶に残るプレゼンテーションの仕方などを学ぶことがほとんどできなかったのが心残りであった。多少の差異があるのは当然のことだと思うが、Excel を用いた表計算や関数結合作成などは高校の段階で理解している人も多いと思うので、各自のレベルに応じて、情報の授業で学ぶ内容を自由に選択できるようにしたらより良いのではないかと思った。

情報活用基礎では、高校で習った内容よりさらに深くワード、エクセル、パワーポイントなどの操作方法を学びました。先生の指導はわかりやすく、もし聞き逃したとしても TA の方が丁寧に教えてくださったので、遅れることなく授業についていくことができました。さらに、授業で学習するだけでなく、課題としてその授業でやった内容を使って行うタスクが課されました。授業内容を定着させるためにかなり有効であったというように感じます。パソコンスキルは今後社会に出て必ず必要なものなので、このように大学時に学習できることはかなり有意義なことのように思います。一つのセメスターのみで授業は終わってしまうので、希望者は選択科目として情報活用基礎を取ることができるようなシステムがあると、さらにいいと思われます。
